



Building a better
working world

EY Difference Recruiting Brochure

EY新日本有限責任監査法人



変化の先へ、 あなたと共に



コロナ禍に伴い、誰もが予期し得なかった状況に皆さんも直面されていることと思います。大きな社会の変化で不安と戦い、多くの苦勞をされていらっしゃるでしょう。

私たちEY新日本有限責任監査法人（以下、EY新日本）も、取り巻く業務環境が一変しました。これまでの日常が普通でなくなり、一方で、リモートワークなど世の中に十分浸透していなかった施策は、一気に進めることができました。

私たちEY新日本は常に、働いているメンバーの幸せを一番に考え、そのメンバーがよりよい社会を構築することに役立つことを願っています。そのためサポートは惜しまず、新たな多くの取り組みを実践しています。

もちろん、私たち監査法人の使命が資本市場の信頼性の維持に貢献することに変わりはありません。不確実性に満ちた経済環境であればこそ、社会はより一層監査法人への期待を高めます。

だからこそ、アフターコロナで訪れる新しい時代を見据え、皆さんと共に、過去からの延長線上にない新たな発想で変革を続けていきたいと思っています。

「イノベティブな監査法人」

社会からの期待に応え、その変革を支えていくためには、監査法人としても時代を先取りし、進化していかななくてはなりません。新しい価値観が生まれる時代においても、EY新日本は変革を厭わないプロフェッショナルが集うイノベティブな組織であり続けたいと考えています。そのために、社会環境の変化に合わせた人材育成やキャリア形成の方法を模索し、皆さんが成長できる機会と環境を創っていきます。

皆さんにとって会計士試験に合格することがゴールではありません。今、会計士のキャリアや可能性は無限に広がっています。EY新日本には、皆さんが新しいことにチャレンジできる組織風土と、それを後押しするさまざまな研修や制度があります。自分らしいキャリアや働き方の実現を通して成長していく皆さんを、私たちは全力でサポートします。

「アシュアランス(監査)4.0」

私たちは、来たるデジタル時代の監査を「アシュアランス(監査)4.0」と位置づけ、クライアントのデータに常時アクセス可能な環境下で、ロボティクスやAIを活用して異常な取引や不正の兆候をモニタリングする継続的監査(Continuous Auditing)の実現に向けた研究開発を進めています。この「アシュアランス4.0」の中心となって未来の監査を創り上げていくのは、皆さんのようなデジタルネイティブ世代の会計士です。

EY新日本では、2020年7月にアシュアランスイノベーション本部を設置、2021年7月からはデータ&テクノロジー分野の人材を対象とした新たな人事制度と育成・キャリア形成を支援するフレームワークを導入し、デジタル人材のスキル向上とキャリア開発をさらに加速していきます。デジタル分野でも最先端を走る監査法人として、皆さんと共に新しい時代の監査を先導していきたいと考えています。

「グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献するプロフェッショナルとして」

経済市場のボーダーレス化が進む中で、これまで以上に、さまざまな国籍やバックグラウンドのEYのプロフェッショナルと共に働く機会が増えています。EYのメンバーファームには、税理士や弁護士、不正対策やデジタルの専門家など豊富な知見や経験を持つプロフェッショナルが集っています。また、ダイバーシティ&インクルーシブネス(D&I)の取り組みにも注力し、多様な人材が互いを理解し、尊重し、刺激し合いながら成長できる環境があります。EY新日本は、皆さん一人ひとりが自分らしくいることが、プロフェッショナルとしての可能性を最大限に発揮できることに繋がると信じています。

私は物事をポジティブにとらえることが大好きです。今、この大きな変革のチャンスを、皆さんと一緒に楽しみたいと思っています。

EY 新日本有限責任監査法人
理事長 片倉 正美



Whenever you join,
however long you stay,
the exceptional EY experience
lasts a lifetime.

変化に対応し、一緒に未来を創っていききたい

キャリア形成のサポート

私たちを取り巻く環境は、デジタル化やグローバル化が急速に進み、かつ、コロナ禍の影響もあって、ビジネスモデルや労働環境の大幅な変革が迫られています。クライアントをはじめとするステークホルダーの価値観も多様化し、その細分化された個別ニーズに応えるためにも、当該の変化に対して柔軟かつ迅速に対応できる人材が求められています。また、私たちが目指しているのは、職業的専門家として誠実に行動するとともに、高度な専門性、高い倫理観、多様な実務経験を備えたプロフェッショナル集団です。このためには、高度なITリテラシーを保持しながらデジタル技術を駆使するとともに、AIでは代替不能な人間だからこそ可能となる判断力を持ち、国境も超えて異なる文化・背景を持った人々とも協働できる人材が求められます。

このような必要とされる人材を育てる観点から、EYでは多彩な「研修」、「実務経験」を通じた知識や専門性の習得促進、1対1の対話によって成長を促進していけるような「コーチング」という3つの要素を人材育成プログラムの大切な柱としています。

個々人のキャリア目標が多様化する中、皆さんのキャリアは自身で考えることとなりますので、組織としてのサポートを最大限に活用し、ご自身が最も満足するようなキャリアを形成してもらいたいと思います。

プロフェッショナルとして働く喜び

公認会計士が表舞台で派手な役回りを演じることはあまりありません。しかし、監査および会計の専門家として、財務情報に関する信頼性を付与することで投資家や債権者等の利害関係者の保護および資本市場の信頼性を確保し、ひいては国民経済全体の健全な発展に資するという大きな役割を担っています。また、非財務情報に対する関心が高まる等、公認会計士の活動領域はますます拡大しています。

変化が激しく先行きの不透明なこの時代に、必要な変革を厭わないリーダーシップを発揮して社会の期待に応えていけることは、大きなやりがいにつながります。真のプロフェッショナルとして、一緒により良い社会創りに貢献していきましょう。

鈴木 裕司

常務理事 人材開発本部長

※2021年7月1日現在

メンバー紹介

The EY Way

2020年入社
第2事業部
スタッフ
齋藤 結衣



CAREER

2020年

入社。
2カ月間学生非常勤として勤務したのち入社。第2事業部に配属され、メディア、IT系、製造業等さまざまな業種の監査業務に従事する。リクルート活動にも関与。

2021年

引き続きメディア、化粧品会社などの上場企業を中心にコアメンバーとして監査業務に携わる。

プロフェッショナルとして輝く生き方のために

自分ならではの強みを身につけたい

大学に入学し、将来のために何か“武器”を身につけたいと考えたときに知ったのが公認会計士という資格でした。男女の別なく長く活躍できる点に惹かれ、ぜひ自分もこの道を目指したいと思ったのです。高い専門性を身につけたプロフェッショナルというイメージへの憧れもありました。EY新日本を志望したのは、業種（セクター）ごとに事業部が分かれているために担当する業界への知見を深められると感じたか

らです。特定の業種、業界に精通していることは公認会計士としての自分の価値を高めることに通じ、“武器”をさらに磨くことができると思いました。入社前には学生非常勤として第2事業部に2カ月間勤務。その間は業務の基本的な進め方や監査ツールの使い方などを学びました。私にとっては常勤として本格的に働く前の準備期間という印象で、社会に飛び立つ前のちょうどいい滑走ができたと思います。

Saito Yui

2020年入社
第2事業部
スタッフ

2020年2月に学生非常勤として入社し、第2事業部に配属。同年4月より常勤として引き続き第2事業部で勤務する。コロナ禍であっても同期の仲間とはリモートで積極的にコミュニケーションを図ってきた。趣味はプロ野球観戦や国内旅行、音楽鑑賞など。チームのメンバーと一緒にスタジアムへ応援に行けるのを楽しみにしている。

専門性を発揮してクライアントに貢献する

入社後は引き続き第2事業部に所属し、メディア、製造業、IT系の企業の監査業務を担当しました。生活に身近な企業が多いため商材やビジネスモデルへの理解もしやすく、親しみを持ちながら監査に臨むことができました。働き方は、先輩と共に往査先に向かう日と、リモートワークで調書作成を行う日が半々といったところ。往査ではクライアントとのコミュニケーションの取り方を先輩に学び、在宅勤務の際は定時の報告を通じて先輩からきめ細かくアドバイスをいただいています。調書を作成し、レビューの際に「ありがとう、助かった」という言葉をいただくとチームに貢献できた喜びが得られ、成長を実感します。私はまだクライアントと直接やりとりする機会は少ないものの、会計処理について専門的なアドバイスを行ってクライアントから感謝の言葉をいただいている先輩の姿には、公認会計士ならではのプロフェッショナリズムを感じます。いずれ私も主査となり、クライアントの経営陣と直接ディスカッションすることも増えるでしょう。先輩同様、胸を張って対応できるよう、知識を磨いていきたいと思えます。そして何か1つの分野でいいので「これは齋藤さんに聞けば大丈夫」と言ってもらえるような、自分ならではの強みを身につけていきたいと考えています。



自分にとって最適なワークスタイルを

高い専門性を活かして生涯働きたいと考えて選んだ公認会計士の道ですから、女性が活躍するための制度・環境が整っていることもEY新日本への入社決め手となりました。育休取得後に復職し、子育てをしながら時短勤務で活躍中の先輩の姿は、ここでは当たり前存在。在宅勤務もごく自然に行われています。こうしたロールモデルの多さに加え、一人ひとりが自分にとって最もいいワークスタイルを主体的に

選び、その実現をEY新日本が支援してくれるから、多様な働き方が可能になるのでしょうか。公認会計士の仕事は繁忙期と閑散期がはっきりしており、メリハリのある働き方ができます。長い夏休みなど、充実したプライベートを楽しむのは大きな魅力です。そんなゆとりの時間を大切にしつつ、私らしいワークスタイルをEY新日本で実現し、長くプロフェッショナルとして活躍したいと考えています。



MESSAGE

自分を信じて
頑張ってください!

第2事業部

食品、衣料品などの消費財、テレビ局や出版社などのメディア系、ゲームなどのエンターテインメント系企業を中心に、メーカー、IT系のクライアントに向けて、監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。業界特有の知識・知見を深めることで、より質の高いサービスの実現に努めています。

メンバー紹介

The EY Way

2016年入社
第4事業部
シニア
鈴木 彩芽



CAREER

2016年	2017年	2019年	2021年
入社。 第2事業部で消費財企業を担当。半年後に本配属として第4事業部に異動する。	ヘルスケアセクターにて医療法人、地方独立行政法人、独立行政法人を担当。1年のほとんどを出張先で過ごす。その後ライフサイエンス関連の事業会社も担当。	シニア昇格。	ヘルスケア関連IPO業務担当。海外チャレンジプログラムによりシンガポールに駐在予定。

仕事のフィールドが広がれば将来の選択肢も増えていく

地域医療の改善に
貢献できたことを実感

私自身かつて医師を目指していたことに加え、友人にも医療関係者が多く、病院などの環境改善に貢献したいとの思いから、医療関係の仕事ができる監査法人に入社したいと思っていました。パブリックセクターで豊富な実績を誇るEY新日本ならばその希望も叶えられると思ったことが、入社のもちです。実際、1年目から九州エリアの病院や医療法人を担当。3人のチームの

コアメンバーとして内部統制のヒアリングなどのために出張に次ぐ出張の日々を送りました。多忙な病院関係者は職場改善に目を向ける余裕が無いことが多いです。往査の際に他院の事例を紹介し、残業時間削減などに向けた提言を行うことで、私たちは改善のきっかけを植え付けていきました。翌年再訪すると明らかに環境が変わっていることも多く、それは大きなやりがいとなりました。僻地や離島の病院は地域の人々の命を預かっています。院内の労働環境が改善されれば、地域へのよりよい医療の提供につな

Suzuki Ayame

2016年入社
第4事業部
シニア

2016年入社。独立行政法人、医療法人を担当して経験を積む。その後、上場企業、IPO準備企業も並行して担当。海外勤務にも興味があるため、海外チャレンジプログラムを利用してEYシンガポール事務所に赴任予定。趣味はキックボクシング。休日になると近所のジムで数時間汗を流す。スパーリングで体はあざだらけ。しかし頭の中は真っ白で、最高のリフレッシュに。

がっていくでしょう。そんな社会貢献の喜びを実感しながら出張を続けた日々でした。

上場企業、IPOと担当の幅が広がる

転職となったのは3年目上場企業の監査を担当することになったことです。パブリックセクターの会計基準は独特で、一般企業とはスピード感なども違います。上場企業となると担当者も公認会計士の有資格者であることが珍しくなく、より専門的な知見が求められるようになります。病院や医療法人を担当しながら同時に上場企業も担当したことで、私の視野とスキルは一気に広がったことを実感しました。さらに5年目にはヘルスケア関連企業のIPO準備も担当。視野は一段と広がりました。このようにスタートはパブリックセクターではあったものの、気がつけば事業会社、IPO、と異なる経験を重ね、公認会計士としての仕事の幅が広がっていったのです。さまざまな領域に数多くのクライアントを持つEY新日本だからこそ、こうしたキャリアの広げ方が可能だったと思います。

次のチャレンジは世界へ

担当した上場企業がグローバルに事業を展開していたため、業務では英語のスキルが必須でした。けれど私は英語のコミュニケーションが苦手。必要に駆られて必死で勉強することになりま



した。その結果、海外でのビジネスに対する関心が高まり、せっかく学んだ英語も活かしたいとの思いで、海外駐在にもチャレンジすることにしました。そこでEY新日本の「海外チャレンジプログラム」に挑戦。選考をパスして、EYのシンガポール事務所への駐在が決まりました。期間は1年半の予定で、これが終わったら他にも2、3カ国で働いてみたいと考えています。英語はまったく苦手だった私がまさか自ら望んで海外で働くことになろうとは、想像もしていませんでした。これでパブ

リック、事業会社、IPOに加えてグローバルが私のキャリアにおける四つ目の軸として加わったこととなります。いずれこの中から私のスペシャリティを発揮できる道へ進むことになるでしょう。選択の可能性が広がったことを、改めて嬉しく思います。入社前の面接で会った先輩たちは皆さん明るくフレンドリーで、強い意志を持ちながら自分の道を歩いていると感じました。私も先輩のようになりたいと憧れたものです。これからは私の姿も、先輩たちの参考になればと思っています。



MESSAGE

EYで
一緒に働きましょう!

第4事業部 (パブリックセクター)

ライフサイエンステクノロジー(製薬・医療/精密機器等)、エネルギー(電力・ガス・石油等)、パブリック(地方自治体・大学・病院等)の3つのセクターにより構成され、多様な業種の監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラをささえる非営利組織等、規模もマーケットも多様なクライアントに対して、多様性と専門性の双方を追求し、サービスを提供しています。

メンバー紹介

The EY Way

2009年入社
第5事業部
シニアマネージャー
松本 大雅



CAREER

2009年	2012年	2016年	2018年	2019年
入社。国際部（当時）に配属され、自動車メーカー、自動車部品会社、外資企業等の会計監査を経験。	シニア昇格。グローバルに展開する自動車関連企業、スタートアップ企業の主査を担当して監査経験を積むとともに、非監査業務、執筆活動等にも携わる。	マネージャー昇格。海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所に駐在。シリコンバレーのテクノロジー企業、日系企業の監査の統括マネージャーとして従事。	帰任。主に自動車関連企業の監査を担当。	シニアマネージャー昇格。

チャレンジし続けることがプロフェッショナルの条件

挑戦が人を育てる

スタッフ時代を振り返ると、新人ながらすごい経験をさせてもらっていたんだなと改めて感じます。日々、目の前の業務をこなすのに一杯ではあったものの、得意の英語を活かせる業務がしたいと口にしたら、海外監査チームとのコミュニケーションを含むグローバルな業務にも携わらせていただきました。もちろん上司が手厚くサポートしてくれてはいたものの、当時の私にとってはチャレンジングで刺激的な業

務だったことは間違いありません。新しいことに挑戦し、周りのサポートもあったおかげで、すいぶん成長できたと思います。同じことは4年目にシニアに昇格し、主査を担当したときにも経験しました。グローバルに事業を展開する大手企業の監査を経験したいと希望したところ、そのチャンスを与えてもらったのです。この経験も私にとって大きな財産となりました。自ら手を挙げればチャレンジさせてもらえる組織風土に加え、数多くの大企業をクライアントとするEY新日本ならではの環境といえるで

Matsumoto Taiga

2009年入社
第5事業部
シニアマネージャー

2009年入社。自動車メーカー、自動車部品メーカー、スタートアップ企業などで監査経験を積む。サンノゼ事務所への約2年間の駐在を経た後、引き続きグローバル企業を含む自動車関連企業の監査を担当。米国で過ごした小学生の頃からバスケットボールが大好き。チームスポーツでありながら個人も輝けるところがバスケの一番の魅力。

しょう。さらにEY新日本として出版する書籍の執筆メンバーに加われたこと、会計監査以外の非監査業務に携われたことなど、実に多様な経験を積むことができました。

海外駐在で身につけた“武器”

もう一点、私の成長を後押ししてくれたのが、育成を兼ねた若手向け海外派遣プログラムを利用して海外事務所働いたことでした。米国からの帰国子女だったこともあり、いつかは米国で働いてみたいと願っていた私にとってこの海外派遣プログラムは、その思いを叶える絶好のチャンスでした。自ら志望して試験を受け、駐在の夢を叶えました。赴任したのはサンノゼ事務所。私はここでシリコンバレーのテクノロジー企業、日系企業の監査の統括マネージャーとして勤務しました。日本にいたときは、海外で働く上では自己主張が大事という勝手なイメージがありましたが、実際にその中で仕事をしてみて気づいたのが、米国人は言うべきことは言うものの、想像以上にさまざまな配慮をして仕事をしていること。その経験からグローバルコミュニケーションで大切なのは決して押しの強さなどではなく、相手をリスベクトし、誠実な姿勢で相手の言葉に耳を傾けることだと学びました。海外事務所働いたからこそ得られたこのような経験は、グローバルなビジネスパーソンを目指す私にとって大切な財産となりました。サンノゼ事務所での駐在は約2年間。帰任後はグローバル企業の監査を担当していますが、より広い視野で物事を考えることができる



ようになりましたし、外国の方と接する際にも駐在の経験が大きく役立っています。

ますます刺激的な時代がやってくる

私が担当している自動車業界はもちろんのこと、日本の企業全体が大きな変革期に直面しています。我々にはクライアントのDXをサポートしていく役目も期待されており、経営サイドに近いうちで変革のサポートができること、クライアントと共に我々も成長できることに喜びを感じています。その意味でもこれからの時代は公

認会計士にとってますますエキサイティングなものとなるでしょう。今後入社される皆さんにも、非常に刺激的な経験が待ち構えているのではないのでしょうか。そのなかで成長していくためには、やはり自ら手を挙げ、挑戦していく姿勢を忘れないことです。そのような方々をサポートする体制と文化がEY新日本にはあります。私自身は今後もグローバル企業のサポートをしたいという軸は変わらず、より価値ある貢献のために、さらに自分を磨いていきたいと考えています。



MESSAGE

EYで共に
成長しよう!!

第5事業部

主に自動車業界と不動産関連のクライアントを中心に監査を担当しているのが第5事業部です。部内ではセクター（業種）別にチームが編成され、業界特有の専門的な知見、最新の情報に基づいたサービスを提供しています。同時に業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験を共有することで、業界に特有の会計・内部統制上の課題に対応しています。

メンバー紹介

The EY Way

2016年入社
金融事業部
シニア
溝口 功一郎



CAREER

2016年	2017年	2018年	2019年
入社。第1事業部に配属され、主に製造業を営む会社の会計監査に従事。その後、金融事業部WAMセクターに異動。損保系アセットマネジメント会社のファンド監査および信託銀行のSOC業務に従事。	メガバンク、信託銀行、運用会社のSOC業務および、ファンド監査に従事。運用会社等の会計監査も担当。	主にファンド監査を担当。関与する運用会社のSOC業務において主査を経験。また、IPO業務や、東証1部上場の信販会社の会計監査を経験。さらに有志で教育支援に参加し、中学生への会計教育を行う。	シニア昇格。引き続きファンド監査、SOC業務、上場企業の会計監査を担当。社会貢献プログラム「EY Ripples」の一環として中高生教育支援プロジェクトに参加。

金融の高度な専門性を磨きつつ、多様な経験も積み成長する

資産運用業界の健全な成長を支えたい

私が所属する金融事業部のWAM（ウェルス&アセットマネジメント）セクターは、主に資産運用業界に特化した専門家集団です。数学が得意だった私は学生時代に公認会計士の道を志すことを決め、卒業後に本格的に勉強を始めましたが、その際に考えたのが、自分ならではの強みを持った公認会計士となるために、特定の分野に精通したいということでした。金融が面白そうだ

とは思っていたのですが、銀行の監査にとどまるのではなく、投資信託やファンドなどにも携わりたいと思ったのです。そんなとき、EY新日本の説明会でWAMセクターのことを知り、ここでぜひ専門性を磨きたいと考え、入社を決めました。投資家から資金を預かって運用するのが、資産運用業界です。貯蓄から投資へという社会トレンドの中、資産運用業界の監査を通じて投資家が安心して資金を預けられる環境を整えることに、公認会計士としての大きな責任と社会的使命を感じています。

Mizoguchi Koichiro

2016年入社
金融事業部
シニア

入社1年目から金融事業部WAMセクターに配属され、資産運用会社等の監査に従事。その一方で受託会社の内部統制関連業務やIPO支援業務、さらには中高生教育支援プロジェクトと、幅広い業務に携わる。趣味は海外旅行。一人で出かけるのが好きで、想定外の事態に遭遇しても乗り越えていくことを楽しんでいる。

枠にとらわれず、さまざまな業務に挑戦する

投資信託（ファンド）を一つの箱とすると、その中には株式や債券、デリバティブなど多様な金融商品が詰まっていて、運用のプロが運用を担当しています。私たちが行う監査はその箱全体を対象とすることになり、多くの科目を一人で見るという醍醐味があります。WAMセクターならではの面白みでしょう。一方、FinTech企業のIPO支援に携わったり、年金運用受託会社の内部統制（SOC）に係る保証報告書のチェックを行ったりと、幅広い業務も担当。さらには「公認会計士である以上、一般の上場会社の監査も経験したい」と上司に相談したところ、東証1部上場の信販会社の監査も担当できました。このように枠組みにとらわれることなくボーダーレスに業務に挑戦できるのが、EY新日本らしさです。それが可能なのも、業界No.1として多くのトップ企業をクライアントに擁しているからにほかなりません。もちろんそうした環境を自分の成長のために活かすには、自ら案件に飛び込んでいく主体性、積極性が必要なのは言うまでもありません。

次世代人材への金融リテラシー教育も

幅広い活動ということで特にご紹介したいのが、



企業の社会貢献プログラムとして行っている「EY Ripples」の取り組みです。その一環として中高生教育支援プロジェクトを展開。私は都内の中学校に赴き、公認会計士としての目線で、中学生の購買活動をアドバイスしました。日本では若い世代への金融教育が欠けていると感じており、中学生たちに金融リテラシーを身につけてほしいとの思いがそこにありました。数年後、私が教えた中学生の中からEY新日本に入社する人材が出てき

てくれたら、嬉しく思います。私自身は、これからもWAMセクターの業務を通じて、資産運用業界に精通したプロとしての道を歩んでいきたいと考えています。



MESSAGE

皆様にお会いできる事を
楽しみにしています。

金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各金融分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、長く業界のNo.1として総合的な金融サービスを提供。EYの強みであるグローバル業務やアドバイザー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多様な業務経験や高い専門性を得られる業務領域が広がっており、業界の最先端を走り続ける「EY金融」会計士のキャリアの可能性はますます高まっています。

メンバー紹介

The EY Way

2007年入社
企業成長サポートセンター
シニアマネージャー
吉田 陽介



CAREER

2007年	2010年	2015年	2018年	2019年	2020年
入社。監査第2部(当時)配属。製造業や小売業、IT系の上場企業を中心に法定監査業務に従事する。	シニア昇格。	マネージャー昇格。第3事業部に異動。	モビリティを利用し、証券会社の公開引受部に出向。主にベンチャー企業へのIPO支援や市場変更のコンサルティングを経験する。	シニアマネージャー昇格。	証券会社から帰任し、企業成長サポートセンターに所属。ショートレビューやIPO監査業務、IPOアドバイザーのほか、社内外の研修・セミナーの企画・運営や講師も担当する。

IPO業務を通じて、次代の世界企業を育てたい

トップクラスの実績を誇るEY新日本

EY新日本は、日本国内でのIPO業務でトップクラスの案件実績を誇ります。その高い実績への評価が、さらに大きなポテンシャルを持つ成長企業からの依頼を呼び込むという好循環につながっています。必然的にIPOに関するナレッジは豊富に蓄積され、その知識・情報を活用することでサービスの質は磨かれていきます。2020年にEY新日本では、IPO業務に実績や知見のあるメンバーを評価する「IPO認定者制度」を

創設しました。EY新日本が法人としてこの領域にいかにも本格的に取り組んでいるかを示すものです。さらには上場支援にとどまらず、資金調達や事業計画策定なども含めてワンストップでサービスを提供する専門チーム「EY Startup Innovation」も設置。包括的なベンチャー支援に力を入れています。こうした環境は私たちメンバーにとって非常に魅力的であり、トップレベルのIPO業務に携わっているという自負が得られます。

Yoshida Yosuke

2007年入社
企業成長サポートセンター
シニアマネージャー

誠実で飾らない人柄のメンバーが多いことに惹かれて、新日本監査法人(現EY新日本)に入社。上場企業の監査業務に携わるなかで上場準備企業の監査を手伝ったことから、IPO業務に関心を持つようになり、証券会社への出向を経て現職に。趣味はロードバイク。友人とツーリングに出かけて、風を切って走っている。休日には2人の子どもと公園で遊ぶのが楽しみ。

出向経験によって 深い専門性を身につける

私がIPO業務に携わるようになったのは、入社5年目に上場準備企業の監査に主査として関与したことがきっかけでした。そのうちの1社が上場を達成したことで若い起業家たちと一緒に疾走する喜びと達成感を味わったのです。以来、IPO業務に傾注するようになりました。一方でクライアントからの期待と自分の実力にギャップがあることを痛感。より専門的な知識・経験が必要だと感じ、IPOのメインプレーヤーの立場から業務を経験したいと考え、自ら望んで2年間にわたって証券会社に出向しました。証券会社では公開引受部で上場審査の最前線を経験。上場というゴールに向けてどんな道を行けばいいのかを、リアルに学びました。自分を磨くために他社で経験を積みたいという希望が叶えられるのも、EY新日本の素晴らしいところです。

監査業務の経験が生み出す高い価値

証券会社への出向で感じたのは、私たちが監査業務を通じて当たり前のように感じていた知見が、実はとても価値あるものだったということでした。ちょっとした助言が想像以上に喜ばれたことが数知れずあったのです。これはIPO業務そのものにおいても同様で、上場準備中のベンチャー



企業に対する私たちの一言は私たちが思う以上に価値があります。例えば取締役会の議事録の書式ひとつとっても、上場会社なら当たり前のことがベンチャー企業にとっては悩みの種になることもあります。こうした上場企業としての“あるべき姿”を達成する上で、私たちが提供するサポートは非常に大きいといえます。その価値を私たちは入社以来携わってきた監査業務を通じて身につけてきました。日本を代表する企業の監査業

務に携われることは、IPO業務におけるアドバンテージにもつながっているのです。今後私自身はベンチャー企業に対して、チームとしてはもちろんのこと、私個人としてもワンストップでサービスが提供できるようになりたいと考えています。そして次代の世界企業を日本から送り出すことを夢見て、さらに自分を磨いていきます。



MESSAGE

未来を創るスタートアップを
一緒に支えていきましょう!

企業成長サポートセンター

EY新日本に蓄積されたIPO支援のナレッジを活用し、IPO関連イベントやセミナー等を開催して、多くの成長企業に情報提供を行います。上場希望の企業に対してはナレッジやノウハウ、人脈等の総合力を駆使してIPO支援を行うと共に、上場後の監査も担当します。

メンバー紹介

The EY Way

2007年入社
第1事業部
パートナー

甲斐 靖裕



CAREER

2007年	2011年	2013年	2017年	2020年
入社。監査第6部(当時)に配属されて化学繊維大手のグローバル企業担当となり、J-SOX導入支援業務に携わる。その他にも不動産、人材紹介などさまざまな企業の監査に従事するほか、IPO業務にも関わる。マネージャーに昇格。	シニアマネージャーに昇格。グローバル企業の統括主査となり、多くの海外EYメンバーとのコミュニケーションや海外出張などを経験。また人材育成プログラムNextGenにも参加し海外研修や経営執行部への企画提案など、法人内でさまざまなチャレンジを経験。	採用活動にリクルーターとして参加。	パートナーに昇格。採用担当となり、受験生とのリレーション構築や法人説明会のイベント等で活動。	化学セクターナレッジリーダーとなり、監査チームに対して業界で共通する会計・監査上の検討課題に関する情報共有の機会を提供。

チャレンジの数だけ未来の選択肢は広がる

業界のスペシャリストとして

EY新日本はインダストリーごとのセクター活動が活発に行われているため、その業界に精通した知見・情報を蓄積しやすいことが強みです。しかも業界のリーディングカンパニーを多数クライアントとしていることから、業界全体を俯瞰したアドバイスも可能です。EY新日本で経験を積むことで業界のスペシャリストとしての付加価値を身につけられるのは、こうした環境のためと言えるでしょう。私自身は入社以来一貫して化

学業界のクライアントを担当し、化学業界のナレッジを蓄積してきました。公認会計士は常にクライアントに寄り添うように仕事をしているため、日本経済の成長を牽引するリーディングカンパニーのビジネスパーソンと膝を突き合わせて向き合える点は大きな醍醐味です。現在私は化学セクターのナレッジリーダーとして、各監査チームと業界の事情や課題、論点などについての情報共有を進める立場にあります。自ら蓄積してきた知見をEY新日本の価値向上に結びつけられることも、やりがいに感じています。

Kai Yasuhiro

2007年入社
第1事業部
パートナー

2007年に大手監査法人から転職。化学業界リーディングカンパニーをはじめとするさまざまな企業の監査に従事するほか、IPO業務や採用業務にも携わり、多様な経験を重ねてきた。化学セクターのナレッジリーダーも務める。趣味はキャンプ。家族と共に大自然の中で過ごす時間を大切にしている。

キャリアに対して欲張りでありたい

私がEY新日本に入社して最も驚いたのは、手を挙げた人には大胆にチャンスを与えるカルチャーでした。私がグローバル企業の監査もやりたいしIPOも経験したいと欲張りな希望をしたときも、その両方にチャレンジさせてもらいました。また、人材育成プログラムNextGenに参加し、執行部への企画提案や、海外のEYメンバーとのコミュニケーションの機会を得ることができ、より高い視野で監査法人のあるべき姿を考え、グローバルな視点でクライアントと向き合える力、感覚を身につけることができたと思います。さらに採用活動に携わったことも私にとってはチャレンジとなりました。ちょうどEY新日本が大きく変わろうとしていた時期に、この先我々がどこを目指そうとしているのかを考えながら受験生の皆さんに発信したことで、EY新日本の魅力を改めて体感することができました。EY新日本のことが一段と好きになったのもこのときです。キャリアや年齢に関係なく、常に成長できる環境がEY新日本にはあります。

変革を先取りできるアドバンテージ

“デジタルイノベーションの波は、私たちの社会・経済・産業に大きな変革を求めています。多くの



クライアントがDXに舵を切る中、監査のあり方や公認会計士に求められるものも間違いなく変わってくるでしょう。その大変革の中でどんな価値を発揮できるかが、これから私たちに問われてくると思います。EY新日本は業界のリーディングカンパニーを多数クライアントとして持ち、さらにグローバルの舞台で多くの仲間が活躍しています。むしろ変革の波を先取りできるアド

バンテージがあるのではないのでしょうか。こうした環境のなか、これから入社される皆さんはさまざまなチャレンジの機会に自ら手を挙げることで、可能性の幅をいくらでも広げられるでしょう。私のように欲張りに、どんどん手を広げていってかまいません。その中で自分自身のスペシャリティを見極め、進むべき道を見つけ出し、自らを磨いてほしいと思います。



MESSAGE

皆さんのチャレンジを
お待ちしております

第1事業部

化学、テクノロジー、商社業界を中心に、グローバルクライアントからIPO準備会社まで、幅広くカバーしているのが第1事業部です。デジタルイノベーションをはじめとする環境変化に対応する企業も多く、業界知見や多様なスキルを持った人材によって監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。部内はセクター(業種)別にチームが編成されています。

メンバー紹介

The EY Way

2014年入社
EYストラテジー・アンド・
コンサルティング
シニア
森岡 美衣



メンバー紹介

The EY Way

2007年入社
EY上海 (出向)
シニアマネージャー
西澤 礼



メンバー紹介

CAREER

2014年	2017年	2019年	2021年
入社。 名古屋事務所に配属。精密工業、建設業、学校法人等の監査に従事。アニュアルレポート(英文財務諸表)の作成やリクルート活動も経験する。	シニア昇格。 自動車部品メーカー、小売業、学校法人等の現場主査としてチームマネジメントを担当。IPO準備にも携わる。	フィリピン語学研修(1カ月)に参加。	モビリティを利用し、かねて希望していたSaTのTRS部門に出向。主にアミューズメント業界の再生案件に携わる。

CAREER

2007年	2009年	2014年	2017年	2020年
入社。 公開業務部(当時)に所属し、主に上場会社・IPO準備会社の監査業務に従事する。	シニア昇格。クライアントの窓口として監査現場のとりまとめのほか、IPO準備会社のショートレビューも担当し、上場に向けたアドバイスも行う。	マネージャー昇格。各監査エンゲージメントのプロジェクト管理を実施。IPO準備会社の新規監査契約に向けた提案も行う。	人材開発本部採用課と兼務し、定期採用業務に従事。	EY上海に出向。グローバル日系企業の現地法人との会計・監査に関するコミュニケーション活動等に従事する。

新たな成長を目指し、自らの意思で出向へ

メンバーファームへの門戸が開かれている

私がモビリティ制度を利用したEY Japanのメンバーファームへの異動を考えるようになったのは、新しい環境で自分の可能性を広げたいと思ったからでした。名古屋事務所での7年間、幅広い業種のクライアントに対して監査業務を中心に英文財務諸表の作成、IPO準備等に携わるうちに、“数字を見る”だけでなく、クライアントと一緒に“数字をつくる”業務にも取り組んでみたくなったのです。そこで希望したのが企業価値向上等の戦略的アドバイザー業務を行うSaTでした。転職することなく、異なるフィールドでの挑戦に一步を踏み出せるのは、メンバーのキャリア形成に意欲的なEY新日本ならではの魅力です。



算定、債権者向けの説明資料の作成などを行っています。クライアントと一緒に再建計画書を作成し、金融機関や債権者のもとへ説明に出向くのですから、まさに運命共同体の一員として取り組んでいる実感が得られます。債権者の数字に対するシビアな目線を知ることもできました。一緒に働く仲間は銀行出身者、証券会社出身者など、バックグラウンドは多彩。公認会計士はむしろ少数派です。再生案件では、監査法人のときは関わることもなかった弁護士の方々と仕事をすることも多いのですが、同じプロジェクトで動いている弁護士の先生方の案件の進め方、物事の考え方など、日々勉強になることばかりです。出向期間は2年間です。ここでの経験を新たな糧として、私ならではの価値が提供できる公認会計士を目指していきたいと思っています。

多様な視点、新しい知見を身につける

企業・事業再生を手がけるTRS部門で私は、アミューズメント企業の案件を担当。資金繰り状況のモニタリング、グループ会社の統廃合、清算価値の

Morioka Mie

2014年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング
シニア

人材紹介会社で転職アドバイザーとして働いた後、公認会計士を目指してキャリアチェンジ。EY新日本に転職する。名古屋事務所での監査業務を中心に経験を積んだ後、7年目にSaTに出向。学生時代からバックパッカーとして世界を旅してきた。今の目標はウクライナへの再訪。

MESSAGE

みんな ☆
がんばれ!!

EYストラテジー・アンド・ コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングは2つのサービスラインが統合した法人です。EYの戦略コンサルティングサービスの集約により、大手クライアントに向けて成長のための多様な支援業務を行っています。

新しいバリューを海外で

コミュニケーションギャップを埋める

上海で暮らして感じることは、デジタル技術の進化を通じた成長の勢いです。そのスピード感は凄まじく、非常に刺激的です。業務においては文化や言語が日本とは異なるため、時にはコミュニケーションギャップも発生します。駐在員である私の役割の一つが、そうしたギャップを埋めることです。グローバル日系企業の日本本社と中国の現地法人、EY新日本とEY上海という4つの組織の間で問題点や課題点を整理。さらに、税務や内部統制、M&Aなどの相談事に対して各専門家と連携し、課題解決に協力して取り組んで



いきます。EY新日本で得た会計や監査の知識や経験をベースに、コーディネーターとしてクライアントに貢献しています。

クライアントへのさらなる貢献を

入社以来私は、特にIPO支援についての専門性を磨いてきました。自分自身のさらなる成長を考えたとき、グローバルビジネスに対する感覚を身につけることが不可欠であると感じて海外駐在を決意し、社内公募を利用してEY上海に駐在することになりました。上海で過ごす3年間は、私にとって将来活躍するための貴重な経験になると考えています。自ら望めばこうしたチャンスが得られることに、EY新日本の人材育成に対する強い思いを感じます。帰任後はグローバルにビジネスを展開している企業の監査に携わり、EY新日本とEY海外法人がスムーズに連携できるように駐在経験を役立てたいと考えています。また、グローバルなコミュニケーションの経験を活かして、これからもクライアントにさらなる価値提供を行ってまいります。

Nishizawa Rei

2007年入社
EY上海 (出向)
シニアマネージャー

事業会社で経理として勤務した後、新日本監査法人(現EY新日本)に入社。上場会社、IPO準備会社の監査業務に従事した後、各監査エンゲージメントのプロジェクト管理や定期採用業務等にも携わる。13年目にEY上海へ、3年間の予定で駐在員として赴任。休日にはゴルフや旅行を楽しむほか、語学学校に通って中国語の習得にも努めている。

MESSAGE

同じ専門家として
EYで会うことを
楽しみにしています!

EY上海

EYは150カ国以上で監査・保証業務、税務、「ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティング」のサービスを提供しており、全世界を「Americas(北・中・南米)」「Asia-Pacific(アジア・パシフィック)」「EMEA(欧州、中東、インド、アフリカ)」の3つのエリアに区分して運営しています。中国・台湾には約30の拠点があり、EY上海はそのうちの一つの組織です。

キャリアを拓くのは自分自身。 新しい時代の新しい道を、一歩ずつ進んでいきたい。

若手スタッフが、部門を超えて本音でディスカッション。仕事のやりがいやこれからのキャリアビジョン、その想いを叶える場としてのEY新日本について語り合いました。熱い志は、自分の未来を拓く原動力です。

—どんなやりがいや志を持って仕事に取り組んでいますか。

後藤 私は入社前からヘルスケア産業に興味があり、パブリックセクターが病院への圧倒的な関与実績を持っていること、そして製薬会社等のヘルスケア企業に並行して関与できることに惹かれて、EY新日本に入社しました。監査法人で働く魅力は仕事を通じてさまざまなクライアントの会計事象に触れることにあり、その経験を通じて日々ナレッジを蓄積していくことが面白いです。それによってクライアントにサポートを提供できることが、大きなやりがいです。

山田 後藤さんと同じように、以前から興味があったエネルギー業界のクライアントを多く持っていたことが、EY新日本に入社を決めた理由です。エネルギー業界というのは非常にスケールが大きく、20年以上続くプロジェクトも珍しくありません。監査にも大局的な視点が不可欠です。日本の未来のあるべき姿を描きながら仕事に取り組めるのが面白いです。

村上 公認会計士には、企業と利害関係者の間に立って第三者的な立場から財務諸表に信頼性を付与することが求められます。同時に企業の成長を促し、市場全体の活性化に寄与することも必要です。そんな責任感がやりがいに通じると感じ

ています。往査の際は特にプロとしての自覚と責任を痛感し、社会からの信頼にしっかりと応えなければ、と強く感じます。

田村 学生非常勤という身でありながら、監査チームの一員として責任ある仕事を任されています。発表前の有価証券報告書のチェックを担当したときは身が引き締まる思いがし、公認会計士だからこそ任せられ、信頼されていると痛感しました。今は自分のできることに一生懸命取り組みつつ、先輩の仕事ぶりから少しでも多くのことを学びたいと考えています。



—これからどんなキャリアを歩んでいきたいと考えていますか。

村上 私は女性として長く働く上では資格を身につけるのが有利と考え、この道を選びました。地方出身ということもあり、地元に戻ることがあ

っても公認会計士ならばどこでも活躍できると考えたのです。

後藤 EY新日本には、女性としてのライフイベントと仕事を上手に両立させながら活躍している先輩が多いので、心強いですよね。

村上 はい。まずは大企業の監査を通じてビジネスの仕組みを学び、同時に中堅企業の監査に携わることで監査の全体感をつかみたいと思います。その後は中堅企業に特化したコンサルティング業務に携わり、将来的には地方の活性化に貢献できるような人材を目指したいと思います。

山田 監査だけでなく、税務やIPO、事業再生など、さまざまな支援ができるのも公認会計士ならではのですね。

後藤 私はこれまで監査の業務を通じてクライアントへの理解を深めることができました。そこで感じるのは、クライアントと“伴走する”という関係性の魅力です。将来は病院や製薬会社などの



事業が融合することで生まれるビジネスチャンスに関与しつつ、キャリアの選択肢を広げていきたいと考えています。

田村 会計というのは世界共通の言語ですので、その知識を活かすことでグローバルに活躍できるのではないかと考えたのが、私がこの業界を選んだ理由でした。ですから将来は海外駐在に挑戦したいと思います。一方で会計監査を通じて企業の“あるべき姿”を学んだ上で、IPO業務にも携わりたいという想いもあります。そこで海外企業のIPOに携わり、吸収したベンチャースピリットを日本に持ち帰って、国内企業の成長に貢献できたらと考えています。

山田 自ら将来の可能性を広げていけるのが公認会計士の魅力ですので、私も複数の業務に携わることで将来の選択肢を増やし、自己実現につなげていきたいと考えています。同じチームには公認会計士として業務をこなしながら、弁護士、さらには大学講師としても活躍している先輩がいます。その姿には大いに刺激を受けます。

—職場の環境や周囲のメンバーとの関係は、いかがですか。

山田 今も申し上げたとおり、先輩の姿からはEY新日本の公認会計士の将来には多彩な選択肢があるということを教えてもらいました。当初は私も公認会計士になったからには監査や税務



に特化した働き方をしなくてはならないと思いますが、今後のキャリアの礎となる基盤を固めることができました。

村上 私は就職活動中に、先輩方から親身になってサポートしてもらったことが印象に残っています。公認会計士としての自分の将来像がなかなかイメージできず悩んでいたとき、「悩むのは当たり前、焦ることはない」と励まし、力強くサポートしてくれました。

後藤 私もそうでしたが、新人の頃って、右も左もわからず、赤ん坊も同然です。そんなとき、まるで親のような親密さで導いてくれるのが、EY新日本の先輩だと思います。

田村 感染症対策で在宅勤務が中心なのですが、リモートでもそうした親密さは感じています。質問や疑問点があると、先輩はオンラインミーティングやメールなどですぐに連絡をくれて、サポートしてくれます。

後藤 同期の仲がいいのもEY新日本らしさですね。新卒だけでなく、社会人経験を持つ中途入社仲間も多いのですが、年齢がバラバラであるにもかかわらず、とても仲がいいんです。長いお休みのときはみんなで温泉に行ったりするほど、仲良しですよ。

山田 私の代も同期で沖縄旅行に行きました。

田村 うらやましいですね。私たちも横のつながりは大切にしていきたいと思います。

—キャリアを考える上で役に立った研修や、在宅勤務の支援などについてはいかがですか。

村上 新人研修が充実しています。ビジネスマナーや監査人としての在り方、さらには監査スキルなどの基礎をじっくり学んだ後、金融事業部独

自の研修も受けました。全部で約1カ月ほどでしたが、今後のキャリアの礎となる基盤を固めることができました。

田村 海外勤務を希望している私にとっては、英語学習のツールが嬉しかったです。これは社外の学習ツールで、EY新日本が費用を負担してくれます。また、全世界共通の監査プラットフォーム「EY Canvas」というツールを新人である私たちも活用していますが、こうした仕組みのおかげで資料の共有もスムーズに行えるなど、在宅勤務も抵抗なくできています。

村上 新人研修中のweb研修を在宅勤務で受講できたのも、新しく柔軟な働き方を体感する上でよかったですよね。



山田 年数回、カウンセラーとの面談があるのですが、私はキャリアを考える上で、いつも相談に乗ってもらっています。私のイメージするキャリアを実践している先輩を紹介してもらったこともありました。

後藤 カウンセラーとの面談では、女性ならではのキャリア形成についてアドバイスをもらうこともできます。新しい一歩を踏み出そうとするときも力強く支えてくれるので、勇気を持ってキャリアを拓いていくことができるでしょう。とても心強いです。

山田 統二郎

第4事業部 スタッフ
2019年入社／商学部卒
「体を鍛えるために朝から運動しています。昼には、そんな自分へのご褒美として和菓子いただきます」

後藤 彩風

第4事業部 スタッフ
2018年入社／商学部卒
「旅行が好きです。出張も多く、目標は47都道府県制覇。現在まで約半分に足を運びました」



Yamada Tojiro



Goto Sayaka



Murakami Kurumi



Tamura Keigo

村上 胡桃

金融事業部 スタッフ
2020年入社／商学部在学中(学生非常勤)
「最近、料理に凝っています。得意なのは炊き込みご飯や天ぷらなど。和食党なんです」

田村 圭吾

第2事業部 スタッフ
2020年入社／経済学部経営学科在学中(学生非常勤)
「在宅で過ごすことが多いのでイスにはこだわっています。オンライン配信サービスの韓国ドラマに夢中」

地区事務所対談 大阪×名古屋 道は自ら拓ける。そこに意志があれば。

北海道から沖縄まで日本全国に拠点を置くEY新日本は、地域のニーズに応える品質の高いサービスを提供しています。エリアの違いにとらわれないキャリアの可能性、女性の活躍を支える環境などについて、大阪事務所と名古屋事務所のマネージャーがご紹介します。

主体的にキャリアをデザインできる

天野 私は手に職をという思いで選んだのが、公認会計士の道でした。

片山 確かに、社会の一員として長く働きたいと考えたとき、公認会計士は男女の別なく活躍できる仕事なのは間違いありません。自分の専門性を発揮することで誰かの役に立てたとき、そしてその結果感謝されたときは、大きな喜びを感じます。

天野 クライアントとコミュニケーションを取って事業への理解を深め、課題と一緒に解決していくことのやりがいは大きいですね。

片山 天野さんはグローバル企業を担当されるなど、国際的な業務が多いそうですね。

天野 海外に関連する仕事がしたいと希望して入社し、子どもたちを生んだ後、10年目には海外派遣プログラムを利用して米国のサンノゼ事務所にて2年間出向しました。実はこのとき夫は仕事を休職し、家族みんなで米国で暮らしていました。

片山 夫の海外駐在に妻がついていくパターンはよくありますが、逆は珍しいですね。

天野 夫も当時はEY新日本に勤務しており、私が産休・育休で2年間休職したから今度は自分の番ということで休職し、子どもと共に米国へついてきてくれたんです。EY新日本大阪事務所にとって前例のないことであつたものの、周囲の理解、協力もあって快く送り出してもらえました。おかげで夫も“主夫”生活をエンジョイできたようです。

片山 それぞれの家庭の事情にあわせ、柔軟に制度を運用してくれる点はEY新日本の素晴らしいところですね。組織としての懐の深さを感じます。名古屋事務所では子育て中のメンバーが「フレキシブルワークプログラム」(※1)を積極的に利用しており、在宅勤務制度もコロナ禍以前から利用されていました。仕事と家庭を両立させるためのサポート体制はとても充実してい



ると感じます。

天野 在宅勤務制度のおかげで時間の有効活用が進みました。仕事の効率が上がっただけでなく、昼休みにヨガをしたり通勤時間帯にジョギングしたりと、プライベートの時間を楽しんでいます。



Amano Yoshie

MANAGER

**志さえあればキャリアの可能性は無限。
選択肢は自分で広がられます。**

片山 「週に何日出社しなくてはならない」というルールがなく、自分で決められるのがいいですね。働き方を主体的にデザインできます。自分が必要だと感じたらリモートミーティングで済ませず、直接クライアントに足を運ぶことも珍しくありません。

※1 フレキシブルワークプログラム=時間外勤務・休日出勤の免除や、短時間勤務、所定勤務日数を低減できる制度

自分が輝くうえで拠点の違いはない

天野 大阪事務所は東京事務所の10分の1ほどの規模で、アットホームな雰囲気です。

片山 さらに小規模なのが名古屋事務所です。みんなフランクでパートナーとの距離が近いのは、地区事務所ならではの魅力ですね。たまたま隣の席にパートナーが座ったから「こんな仕

Conversation

事をしてみたい」と直接相談するというのも珍しくありません。

天野 業界や業務ごとのくくりがなかったり、垣根が低かったりするのも地区事務所。幅広い仕事に挑戦できます。

片山 名古屋事務所では最近IPO関連業務や海外リファーマル業務が増えています。監査業務や非監査業務、セミナーの講師など、希望すればどんどん仕事の幅を広げられます。

天野 そうした意味でも、地区事務所だから仕事に限界があるのではといった心配は杞憂で



先輩から後輩へ、道を拓きたい

天野 私の場合はサンノゼ事務所への出向が一つの転機となりましたが、片山さんにとってのターニングポイントは何でしたか。

片山 シニアからマネージャーに昇格したときでしたね。私にマネージャーが務まるか、一時は昇格をためらっていました。そのときパートナーが「そういう不安と向き合える人にこそ、チャレンジしてほしい」とってくれたんです。その言葉に背中を押され、思い切って一歩を踏み出すことができました。昇格してみると仕事に対するスタンスがまったく変わり、あらゆることに対して能動的に取り組むようになりました。視野も広がったと思います。

天野 そんなふう先輩方が支えてくれるところがEY新日本らしさですね。そこに男女の垣根はありません。

片山 先ほど天野さんがDigital Auditに触れたように、本格的なDX時代において、私たちも自分自身をさらにアップデートさせていかなくてはなりません。デジタルツールは単純作業から私たちを解放し、経営課題の解決など本質的な業務に集中できる環境を実現してくれると思います。

天野 「Japan GradLab(※2)」に代表されるように若いメンバーが中心になってDigital Auditに取り組んでいます。EY新日本の先進性は、これから入社される方にとっても魅力的なことでしょう。

片山 名古屋事務所では、女性として私が一番上のキャリアにあります。後輩の皆さんに多様なロールモデルを通じてキャリアの幅を見てもらうことが、これからの私のビジョンです。チャンスがあればぜひパートナーへの道を目指したいですね。

天野 私はこれまで海外のビジネスについての知見を磨いてきたので、今後もさらにグローバル企業への貢献を続けていきます。そして片山さんと同じく、パートナーを目指したいと考えています。

片山 拠点は違っても同じ志の仲間がいるのは、刺激になります。ぜひ道を拓いていきましょう。

※2 次世代を担う人材を対象とする人材育成プログラム。P.24-25参照

MANAGER
**自分の働き方は自分で決める。
主体性こそが成長を促してくれます。**



Katayama Maki

すね。例えばEY新日本では社を挙げてDigital Auditへの取り組みを行っていて、私は西日本事業部のDigital Audit推進委員として最先端のデジタルツールの周知活動などに取り組んでいます。地区事務所にも所属していてもEY新日本全体の活動においてコアの仕事ができており、東京と地方との差はほとんどありません。

片山 モビリティ制度が充実しているため、自ら望めば拠点間の異動も叶えやすいですね。

天野 結婚を機に実家のある大阪に帰ってきたというメンバーが大阪事務所にもいますし、逆に大阪事務所から東京や福岡へ異動していくメンバーもいます。カウンセラーによるカウンセリングを通じてキャリアを見つめ直す機会が用意されているのも、主体的に異動をするうえでの支えになっていると感じます。

片山 真希

2008年入社
名古屋事務所
マネージャー

愛知県出身。大学卒業後、SEとして働いた後にEY新日本に入社し、名古屋事務所へ。高速道路会社、製造業、学校法人と幅広い業界の監査に従事し、最近では地方公共団体の包括外部監査などパブリック関係の仕事も担当。休日は息子と公園巡りを楽しむ。子どもと思い切り遊べる体力づくりが今の関心事。

EY新日本では、次世代を担う人材を対象とするSTEAM^(*)人材育成プログラム「Japan GradLab」を創設しました。これまでに入社1年目から4年目までのスタッフ46人がプログラムを修了。多方面でさまざまな活躍を見せています。またプログラムの成果を発表する場では、EY新日本の変革を予感させる衝撃を与えました。第1期生の代表5人が、Japan GradLabでの体験をオンラインミーティングで振り返ります。

*STEAM=科学・技術・工学・数学に芸術的要素のArtを加えたもの

— Japan GradLab参加のきっかけを教えてください。

依田 兼務する本部メンバーからJapan GradLabの概要を聞いて「面白そうなのが最初ですね。第一印象で決めました。

村上 Japan GradLabはグループ長がご紹介くださり参加しました。入社前からEY新日本はDigital Auditに力を入れていると感じていたの

で、とても魅力的なプログラムだと感じました。

花井 私も所属するセクターの先輩から話を聞いて興味を持ったんですが、出向中ということが気になって問い合わせたところ、「出向中でも大歓迎」とのことだったので説明会に足を運ぶことにしました。そこで話を聞いて、依田さん同様、シンプルに面白そうだと感じました。新しい時代が始まるような雰囲気でしたね。

依田 確かにあの説明会は印象深かったですね。ここにいるメンバーも含めて、参加していた人はみんな目がキラキラして、本当に志が高いと驚きました。ハイポテンシャルな仲間たちと1年間一緒に新しいことに挑戦できるという、それだけでワクワクしました。

佐藤 私はEY新日本に入社した決め手の一つがJapan GradLabでした。というのも趣味でプログラミングを勉強していたのですが、私のような新人にも、テクノロジー人材を育成する場が開かれているのはEY新日本だけだったんです。

小泉 実は私の前職はITベンチャーのシステム



エンジニア (SE) で、公認会計士へキャリアチェンジする形でEY新日本に入社しました。Japan GradLabの話聞いたときは、まさしく自分のテクノロジースキルをアップデートするチャンスだと感じて、即座に参加を決めました。

依田 小泉さん、SE時代を思い出して久々に血が騒いだのでは？

小泉 ええ、まさかEY新日本でプログラミングをすることになるとは、想像もしていませんでした。

— 実際にJapan GradLabに参加していかがでしたか。

村上 大学の夏季休暇に合わせた研修日程にするなどさまざまな配慮があり、学生非常勤でも参加することができました。監査業務に加え、Japan GradLabにも参加させていただき、充実した日々でした。

佐藤 私も当時は学生非常勤でしたので、村上さんと同じく、そうした配慮のおかげで勉強と両立できました。



Japan GradLabのコース

企 画	デザイン思考をベースに監査現場の課題を識別し対策を立案・推進できるプロフェッショナルを育成
分 析	監査現場で自動化ツールを使いこなし、データドリブン監査を実践できるプロフェッショナルを育成
開 発	監査現場経験とプログラミングスキルを活かして監査現場に役立つソリューションをアジャイル開発できるプロフェッショナルを育成



花井 伸大朗 (写真左上)

金融事業部/2017年入社
金融事業部に配属後、2年目からEYアドバイザー・アンド・コンサルティングに出向し、IT監査、IT統制を担当する。Japan GradLabでは「分析コース」選択。

依田 章宏 (写真中央)

金融事業部/2017年入社
保険会社の監査に携わる一方で、アシュアランスイノベーション本部「AIラボ」にも所属しAI監査ツールの開発を担当する。Japan GradLabでは「企画コース」選択。

小泉 鷹也 (写真右)

第1事業部/2018年入社
化学メーカーの監査を担当する一方で、アシュアランスイノベーション本部「AIラボ」も兼務。Japan GradLabでは「開発コース」選択。

佐藤 佑哉 (写真左下)

第3事業部/2019年入社
重工業メーカーの監査に携わる。Japan GradLabでは「開発コース」選択。

村上 悠花 (写真中央下)

第2事業部/2019年入社
一般消費財メーカーの監査に携わる。Japan GradLabでは「分析コース」選択。

Japan GradLab1期生の年間スケジュール

前半はEY Badges取得と集合研修がメイン。企画・分析・開発の3要素をバランスよく学び、体験しました。後半は正味2週間程度のグループ活動。監査現場の課題を各班で設定し、ソリューションを開発、最後には理事長らにプレゼンしました。



AI会計仕訳異常検知ツール「GLAD」のデモをする小泉さんと佐藤さん

班	グループ活動提案テーマ
1班	日程調整自動化ツール～調整ちゃん～
2班	キャリア開発ツール～Sagasocca～
3班	プロジェクトマネジメントツール～Under Full Canvas～
4班	監査に特化したタスク管理ツール～One Team～
5班	統合監査調査作成プラットフォームの開発

依田 5つのグループに分かれて課題に取り組み、具体的なソリューションを開発して、最後にプレゼンを行ったじゃないですか。若手がこれだけのものを提案したというので、理事長はじめ、皆さんびっくりしていましたね。

村上 私のチームは「統合監査調査作成プラットフォーム」を開発しました。監査調査書の作成を自動化できるツールで、基本的な機能はしっかりと実装できました。

花井 私のチームでは「日程調整自動化ツール」を作成しました。チームにプログラミングに精通したメンバーがいなかったため、手分けして基礎から試行錯誤しながら作業を進めたのが思い出に残っています。監査業務だけでなく、事務作業にも応用できる汎用性が好評でした。

小泉 在宅勤務での進捗確認などのコミュニケーションを助ける「タスク管理ツール」を開発したのですが、人手が足りずに最終的に完成まで至らなかったのが残念です。でも、精一杯やりきったという完全燃焼の手応えを味わいました。

佐藤 私は依田さんと同じチームでした。開発力の高いメンバーが揃っていて、監査のマイルストーンを管理するツールをつくることができました。特にこだわったのは実際の業務で使

るかどうかという点で、データ分析自動化ツール「Alteryx」を活用しながら、全世界共通の監査プラットフォーム「EY Canvas」と連携させることで、EY Canvas自体の進化も提案しました。

依田 中間発表では実際にマネージャーをお願いして使っていただき、その結果を開発にフィードバックもしました。今後は本気で実用化を目指したいですね。

小泉 私はシドニー訪問も記憶に残っています。Japan GradLabはEYシドニーの「GradLab」が起源で、両者のコラボレーション企画に参加しました。AI会計仕訳異常検知ツール「GLAD」を英語で説明するなど、非常にチャレンジングな経験になりました。

依田 第1期生の5チームの中で最も優秀だったチームにはシドニー研修が優勝賞品としてプレゼントされましたね。第2期生以降、これから参加する皆さんにもぜひ優勝を目指して頑張ってくださいと思います。

— 現状の課題と将来の展望について、皆さんのお考えを教えてください。

佐藤 Alteryxによって大量のデータのクレンジングが可能になるなど、工程を劇的に削減できる画期的なツールは今後さらに誕生するでしょう。実際にそれらを活用するには、クライアントを巻き込んでいくことも必要かと思っています。

依田 クライアントとの「共創」ですね。データドリブンによる監査の実現には、クライアントと手を携えていくことが不可欠でしょう。

村上 Japan GradLabに参加し、今後デジタル化はさらに進んでいくことを確信しまし



た。同時にグローバル化も一層進むでしょうから、「デジタル×グローバル」の中で活躍できる人材を目指したいと思います。

佐藤 村上さんと同意見です。監査法人に飛び込んでみて驚いたのが、我々は想像以上にシステムの中で仕事をしているという事実です。まさに「システムの中を泳いでいる」というのが実感です。その中で公認会計士がバリューを発揮していくには、目に見えるデータの裏側にあるシステムをうまくコントロールする必要がある。そんな人材を目指したいですね。

花井 今後の監査においてはデータの信頼性がますます問われるようになるでしょうが、そのデータがどのシステムを経由し、どんな処理をされて出てきているのかということが判断できるようになりたいと思います。これからの公認会計士はそこまで踏み込んでいかなければならないでしょう。

依田 近い将来、プログラムのコードが読める公認会計士が求められるかもしれませんね。今回のGradLabの成果発表を見て、私自身、皆さんの先進性には度肝を抜かれました。私もその一員として、今後は業界全体の度肝を抜くような存在を目指したいと思います。

EY BadgesとEY Tech MBA

EY Badgesは、アナリティクスやテクノロジー、セクター(業種)といった専門分野の学習・経験・貢献の機会をEYが用意し、そのリテラシーをEYが認定する制度です。Udemyなどの人気の講座も無料で受講可能です。EY Badgesをもとに挑戦できる制度がEY Tech MBAで、履修分野に応じたEY Badges取得や論文など所定の履修要件を満たせばEY新日本で働けるまで無料でMBAを取得できます。



【動画】 Smart Audit A-202X

監査先企業と監査法人双方でさらなるデジタル化が進んだ2020年代をイメージし、ある会計士の1日を描きました。そこでは、監査に必要なデータに常時アクセス可能な環境下で、ロボティクスやAIを活用し異常な取引や不正の兆候をリアルタイムでモニタリングしていく継続的監査の世界が広がっています。



EY (Ernst & Young)

組織概要

EY (Ernst & Young) は、ロンドンを本部所在地とし、150カ国以上の国と地域へ約30万人を擁する、アシュアランス、税務、ストラテジー・アンド・トランザクションおよびコンサルティングサービスの分野における世界的なリーディングファームです。Americas (北・中・南米)、Asia-Pacific (アジア・パシフィック)、EMEIA (欧州・中東・インド・アフリカ) の3つのエリアから成り立っています。

150カ国以上の国と地域

約300,000人

EMEIA
(欧州・中東・インド・アフリカ)
約117,000人

Asia-Pacific
(アジア・パシフィック)
約59,000人

※2019年7月1日付で、EY JapanとEY Asia-Pacificが統合しました。

Japan 約9,000人

※EY Japan全メンバー数です。

EY新日本有限責任監査法人
EYトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社*
EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社*
EY税理士法人
EY弁護士法人 ほか

※「2020年10月1日よりEYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社に統合」

Americas
(北・中・南米)
約76,000人

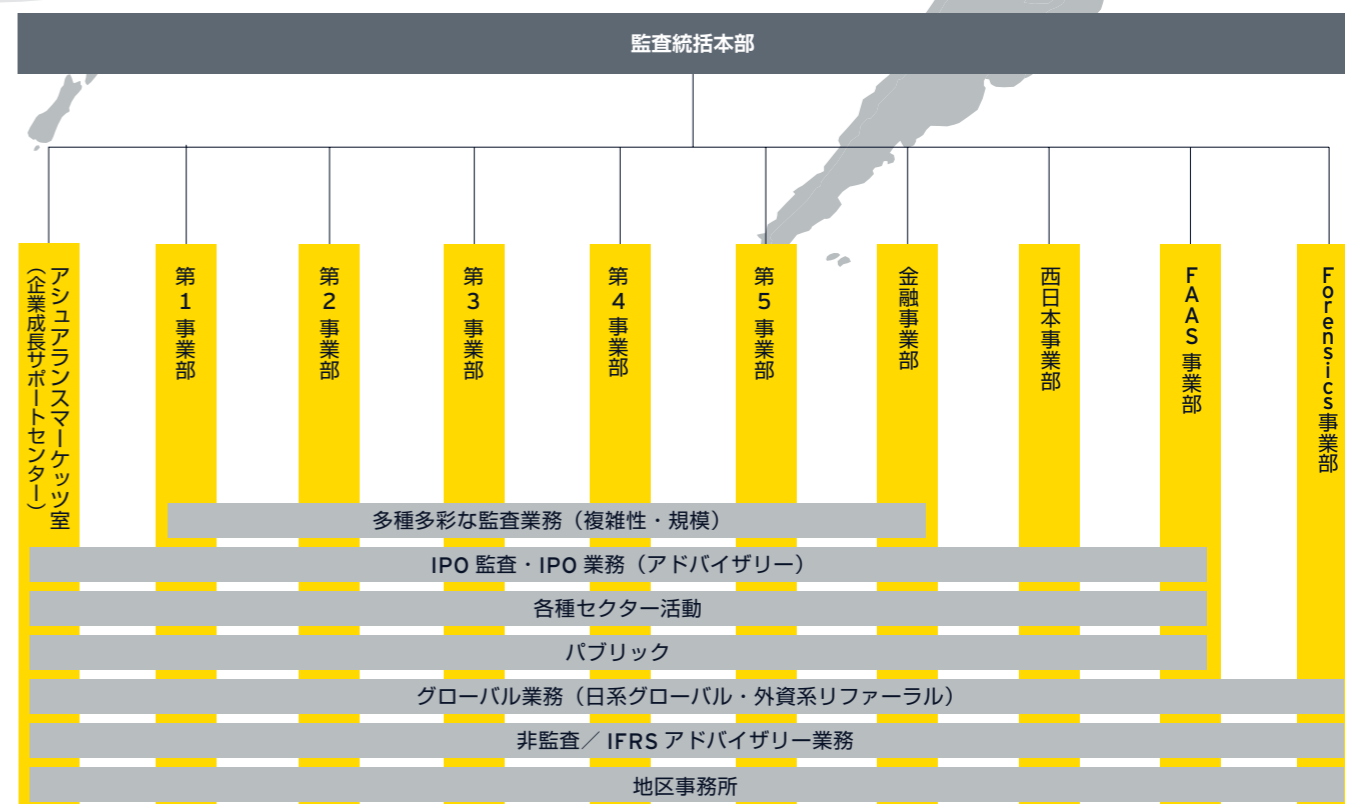
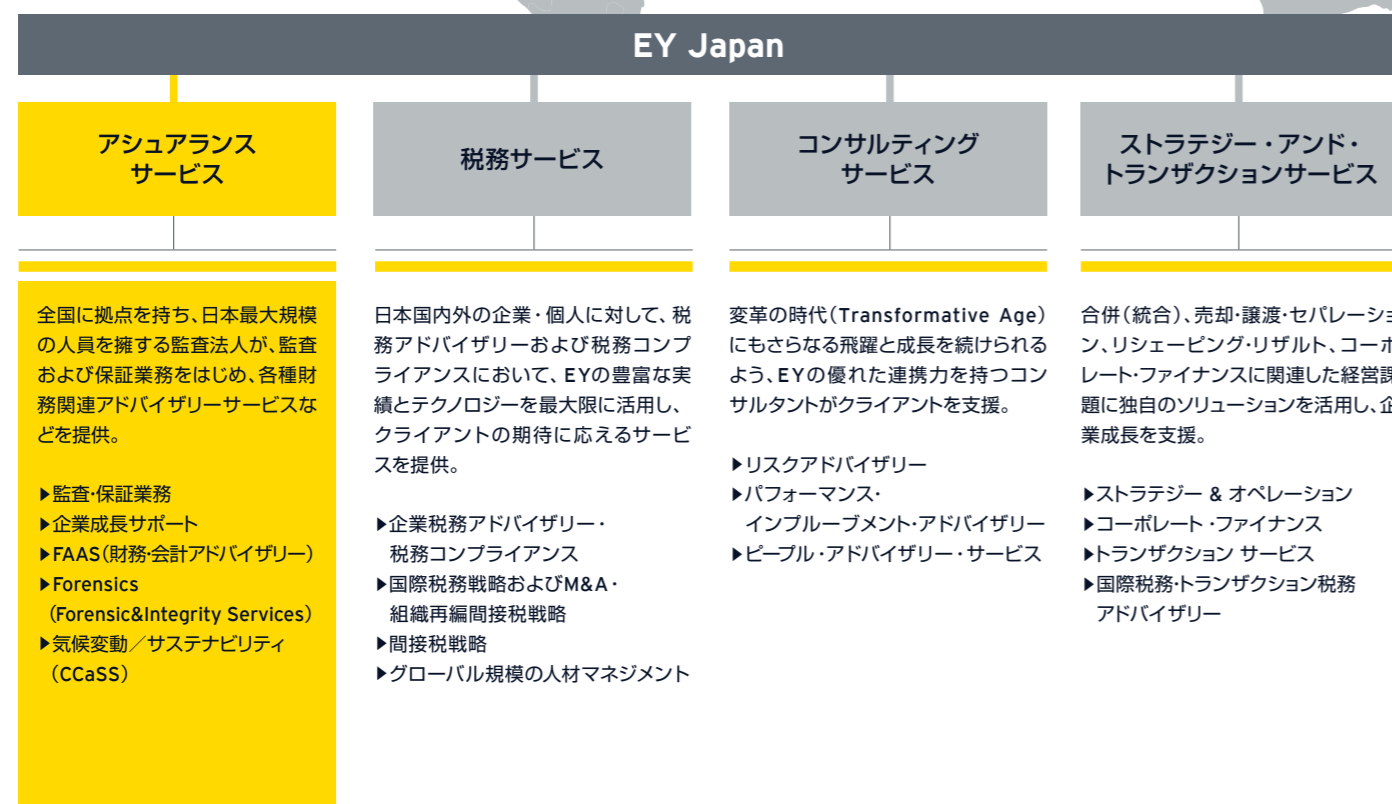
グローバル総収入: 372億米ドル

EY Japan 4サービスライン

EY JapanはEYの日本におけるメンバーファームの総称です。EY Japanはアシュアランス、税務、コンサルティングおよびストラテジー・アンド・トランザクションなどの各社のプロフェッショナルが相互に連携し、案件ごとに最適なチームを編成し、サービスを提供しています。

監査事業部の編成と業務範囲

グローバル業務やIPO業務を含む多様な業務を経験できる機会が、すべての監査事業部にあります。



Training

キャリアを切り拓き挑戦するための支援制度

EY新日本では、皆さんが希望するキャリアに挑戦できるよう、充実のサポート体制を整えています。豊富な人材育成プログラムを活用して、皆さんのキャリアプランを実現してみませんか。

人材育成プログラム

EY新日本は「最新のデジタル技術を活用し、卓越した知見に基づいた保証業務の提供により、ステークホルダーに高い付加価値を与え、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献するプロフェッショナル集団」をAmbition (私たちの目指すべき姿)として掲げています。私たちは、職業的専門家として、高度な専門性、高い倫理観、多様な実務経験を備えたプロフェッショナルの集団でなくてはなりません。これに加え、デジタル化時代に対応して、ITリテラシーの向上を図るとともに人だからこそ可能なプロフェッショナルとしての知見を提供するこ

と、グローバル化時代に対応して、グローバルマインドを備え、海外のネットワークを駆使してグローバルにリーダーシップを発揮することも求められます。EY新日本ではキャリア開発に欠かせないLearning (研修)、Experience (経験)、Coaching (コーチング)の三つの要素を体系的に位置づけて人材育成を行っています。その内容は時代の要請に合わせて柔軟に変化させており、社会の期待に応える真のプロフェッショナルの育成を目指しています。



Learning

研修 (階層別・分野別・専門別研修)

メンバーが自らのキャリアプランに合わせて自発的に受講できるよう、多彩な研修メニューを用意しています。業務を遂行する上で不可欠な基本スキルを身に付け、メンバーの専門性の維持・向上を図るための体系的な研修、そしてプロフェッショナルとしての人間力を高めていくための研修がその柱です。また研修受講機会の多様化を図るため、多くの研修をeラーニング化し、スマートフォンやタブレットといったモバイル端末からも受講可能にしています。

Audit Academy

グローバルで最新のテクノロジーを使用した革新的な教材、Audit Academyを職階別研修のカリキュラムとして導入しています。主査からのSkypeを使った指示や、メールなど、インタラクティブなシステムを使用した臨場感あふれるシミュレーションの導入により、監査現場でプロア

クティブに考えられる人材を育成できるプログラムとなっています。監査実務、プレゼンテーション、ファシリテーションの経験が豊富な認定インストラクターが、研修講師としてプログラムをリードし、非常に密度の高い学びの時間を過ごすことができます。



昇格時研修

EY Globalでは、毎年、世界中から新パートナーが集合し研修を行っています。新パートナー研修では、毎日グループディスカッションが実施されるなど、世界各国の新パートナーが交流を深め、ネットワークを築くさまざまなイベントが企画されています。また、家族等の同行も推奨され、同行者も含めたディナーパーティー等、EYファミリーを経験できるイベントが行われ

ます。新シニアマネージャーにおいても、国内の研修のみならず、グローバルで行われる研修もあり、海外のシニアマネージャーとネットワークを築くことができます。新マネージャー、新シニア昇格時も国内で一堂に集い、トップメッセージ、外部講演、ランチパーティーなど、昇格を盛大に祝いイベントが開催されています。



ラーニングマップ

	スタッフ	シニア	シニアマネージャー・マネージャー	シニアパートナー・パートナー
職階別研修	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 監査業務のフレームワーク ▶ 監査ツール操作研修 ▶ 実査立会確認研修 ▶ 企業組織総論 ▶ 監査計画と戦略 ▶ 各勘定科目の実証手続 ▶ 内部統制の整備状況評価方法、運用状況評価方法 ▶ サンプルング技法 ▶ データアナリティクス基礎 ▶ 監査調査作成演習 ▶ 内部統制監査 ほか多数 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新シニア研修 ▶ 監査手続の実施と総括 ▶ テクニカルライティング ▶ 監査におけるプロジェクトマネジメント ▶ 全般的分析手続の効果的な実施 ▶ 見積取引の識別と実証手続の実施 ▶ 統制の不備の評価 ほか多数 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新シニアマネージャー研修 ▶ 新マネージャー研修 ▶ 監査業務マネジメント ▶ 初度監査 ▶ 専門家の業務の利用 ほか多数 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新パートナー研修 ▶ パートナー研修会
分野別研修	IFRS		<ul style="list-style-type: none"> ▶ IFRS 基礎認定 ▶ IFRS アップデート等 	
	税務		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 税制改正アップデート等 	
	会計		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 会計基準アップデートセミナー ▶ 決算留意事項セミナー等 	
	監査		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 品質管理アップデート研修 ▶ 不正事例研修 ▶ データアナリティクス研修等 	
専門別研修			<ul style="list-style-type: none"> ▶ 銀行業研修 ▶ 学校法人研修・国立大学法人研修 ▶ US 基準研修 ▶ IPO 研修 ▶ セクターナレッジ研修等 	
スキル	職業倫理		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報セキュリティ研修・独立性研修 ▶ ハラスメント研修 ▶ コンプライアンス研修 ▶ 贈収賄防止研修 ▶ プロマインド研修 ▶ ファシリテーション研修 ▶ ロジカルシンキング研修 ▶ プレゼンテーション研修 ▶ コーチングワークショップ ▶ カウンセラーワークショップ ▶ フィードバック研修 ほか多数 	

認定インストラクター制度

より実のある研修を実施するためには、研修内容の充実も大切ですが、講師の質を確保することも重要です。豊富な監査実務経験のみならず、プレゼンテーション、ファシリテーションなどの講師スキルを有する人材が認定インストラクターとして選抜され、社内研修講師を担当しています。外部講師養成講座の受講、ベテラン認定インストラクターからの講義フィードバックなど、継続的な講師育成にも力を注いで

います。EY新日本では認定インストラクター制度を創設してから約10年が経過し、数多くの講師ノウハウが蓄積され、認定インストラクターの中には外部において講師として活躍している方も少なくありません。毎年認定インストラクターAwardにおいて、「ぜひまた講義を受けたい講師No.1」など貢献度の高い講師への表彰も行っています。皆さんもEY新日本の研修をぜひ受けてみませんか。



前川 知之
2015年10月入社
第1事業部 マネージャー

EY Badges

EY新日本の研修の中には「EY Badges」という制度があります。この制度は全世界のEYメンバーが受講できる研修制度で、テクノロジー関係を中心としてAI、RPA、Blockchainなどの各分野で知識と経験を得ることにより、Bronze、Silver、Gold、Platinumといったレベルに応じたBadgeを取得できる制度です。私が取得した「Data visualization」はさまざまなデータを視覚的に表現しその特徴をとらえる専門分野ですが、私の場合は金融事業部にてEY Helixという総勘定元帳データを分析するアナリティクス・ツール導入に関与していたことを契機に、さらにITの知識と経験を広げたいと思い取得しました。研修時

間の確保や英語による講義は大変でしたが、Badgeの取得はその分野の専門スキルの裏付けになり、ほかのサービスラインとの連携を含め、さまざまな業務に挑戦できる機会が広がると思います。現在は、アシュアランスイノベーション本部と金融事業部に所属していますので、今後は金融に限らず、総勘定元帳より上流の財務データを可視化して監査業務に活用したり、データアナリティクスに不可欠なデータ加工をプログラミングによって自動化したりと、ITと監査をより密接に融合させて実務に役立てていきたいと考えています。



山田 智子
2016年10月入社
金融事業部/アシュアランスイノベーション本部兼務
スタッフ

Learning

グローバル化への対応

ビジネスのグローバル化が進む環境の中で、日本国内への対応にとどまらず、グローバルな体制により高い監査品質を実現することが必要とされます。そのためには、コミュニケーションツールとして十分な英語力を保持し、海外のネットワークを駆使しながら、グローバルにリーダーシップを発揮できるマインドを備えた人材の育成が不可欠であると考えています。

英語力のさらなる充実を図るための機会を確保し、グローバルにリーダーシップを発揮できる人材の育成を行っていきます。

▶主なグローバル人材育成プログラム

EY新日本は、全員がグローバル人材になる必要があると考え、基礎から実践までさまざまな育成プログラムを用意しています。

▶語学力向上からビジネス対応まで育成プログラムを拡充



▶語学力に応じた育成プログラムを用意



Advanced プログラム例：

- ▶若手向け海外派遣プログラム
- ▶異文化コミュニケーション研修
- ▶各種グローバルビジネススキル研修
- ▶オンライン英会話費用補助
- ▶外部英語研修補助・法人割引
- ▶goFLUENT（オンライン学習ツール）

Intermediate/Beginner プログラム例：

- ▶コーチング型英語研修
- ▶オンライン英会話費用補助
- ▶TOEIC 公式 e-Learning 費用補助
- ▶セルフスタートセミナー（スタッフ 1 年次）
- ▶スタディサプリ費用補助（スタッフ 1 年次）
- ▶外部英語研修補助・法人割引
- ▶goFLUENT（オンライン学習ツール）

グローバル人材育成のさらなる拡充

- ▶監査の基本理論や実践を学ぶ、年次ごとの職階別研修の一部を英語化することで、日常的に英語を使う環境の整備を進めています。
- ▶単なる語学研修ではなく、グローバルビジネスに必要なコミュニケーションスキル・マインドセット・文化差についての意識等を身に付けられる実践的なワークショップも提供しています。
- ▶スタッフやシニアなど若い年次から海外EYオフィスでの勤務にチャレンジし、実務的な経験を積むとともに海外とのネットワークをつくることのできる派遣プログラムも実施しています。



若手向け海外派遣プログラム

私はEYニューヨーク事務所で20カ月過ごしましたが、現地はUp or Outの環境だったため、仕事で良い評価を獲得することへの追求が非常に強く、仕事に対する意識や姿勢は見習うべきものが多かったです。また、現地では日系クライアントを中心に、その他現地のメディア・不動産・製造業等の会社を担当しましたが、現地職員と文化、言語、育った環境等に違いはあっても、EYという共通項で分かり合え、一緒に仕事ができるというのは素晴らしいことで、EYという共通点でつながりを持っているのがこのプログラムの醍醐味だと思いました。また、EYの中に、

日本企業の海外事業展開をサポートする組織が海外にあることの意義、日本のクライアントが海外進出しそこで頑張っているからこそ、私たちの仕事があるということのありがたみを肌で感じました。これから時代やニーズの変化とともに、組織も形を変えていくと思いますが、私は常に変化に柔軟であり続け、新しいことにチャレンジし続ける精神と、パッションを大事にしたいと考えています。



中谷 恵理子
2008年12月入社
第2事業部 マネージャー

IILC

国際インターンシップ
リーダーシップ
カンファレンス

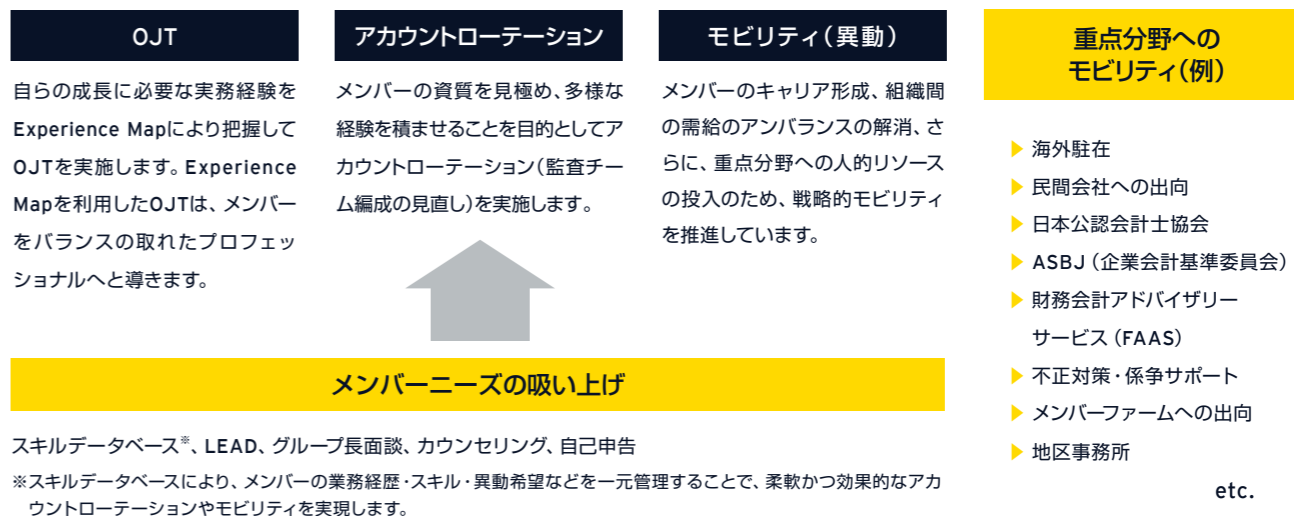
室橋 侑平
2018年2月入社
第3事業部 スタッフ

フロリダのディズニーワールドで開かれる、EY Globalを構成する各国・各サービスラインからインターンを中心とした約3,500人が参加するイベントです。お祭りのような雰囲気の中で進んでいく4日間ですが、グループワークやディスカッション等、アイデアや積極性が強く求められるプログラムも多数織り込まれています。数日間ではありますが、EYGlobalの圧倒的なスケールと共に、プログラムから会場づくりに至るまで、徹底的に詰め込まれているEYカルチャーが世界共通であることを肌で感じることができます。また同時に、自分の胆力を培うことのできる貴重な機会でもありました。言語の差だけでなく、すべてにおいて多様な価値観とバックグラウンドを持つ個々人が、一緒になって与えられた問いに対しさまざまなアイデアを持ち寄り一つの解を見出していく過程は、難しくもありましたがとても新鮮でもありました。スタッフの間に世界の同世代と直接触れあうことのできる数少ないチャンスですので、ぜひ挑戦してみたいかがでしょうか。



Experiences

日常業務におけるOJTに加え、プロフェッショナルとしての成長やキャリア形成の観点でさまざまな制度やプログラムが準備されており、上司やカウンセラーとのコミュニケーションを通じて、一人ひとりのキャリア目標に必要な経験を積み上げていくことができます。



Coaching

カウンセラーからのフィードバックや、業務で一緒になる上司からのアドバイスなど多面的なフィードバックを日常的に行い、業務の質を高めるとともに、プロフェッショナルとしての自律的な成長を促しています。

EYの基本概念であるコーチングはLEAD運用を通じて、個々人に応じた能力開発を実践しています。

カウンセラーとの定期的な面談だけでなく、上司による日常的なフィードバックも重視されます。

コーチングする側にもスキルを得るためのプログラムが用意され、コーチングスキルの向上により、自らの能力開発につなげることができます。

LEAD
(Leadership Evaluation and Development)

すべてのメンバーに、キャリアの先輩であるカウンセラーが任命されます。過去よりも未来にフォーカスしたコーチングや指導、有意義な対話を行うことで、カウンセラーの経験がより充実したものとなるように導きます。さらに業務を直接指導・評価するフィードバックプロバイダーからは、業務上の評価やスキルアップについてのアドバイスを受けることができます。

エクセレントカウンセラー

真のカウンセリングカルチャーを醸成するために、エクセレントカウンセラー制度を新設しました。経験豊富なカウンセラーを選抜し、研修等で事例共有などにより定期的なスキルアップを図ります。また、人材開発部にキャリアコンサルタント（国家資格）保持者が約10人おり、専門的な知見も活用しながら、皆さんのキャリアをサポートする体制を構築していきます。

Diversity & Inclusiveness

ダイバーシティ & インクルーシブネス

2019年7月、EY新日本で四大監査法人初の女性理事長が誕生。2021年7月には常務理事以上の女性が4人となり、四大監査法人で最も多様性の高い陣容で経営の意思決定を行っています。女性や働くパパのワーク・ライフ・バランスを全面的にバックアップし、また一人ひとりの違いを尊重するEY新日本では、外国人、障がい者、LGBT+の方も活躍しています。



梅田 恵 Umeda Megumi
ディレクター
ダイバーシティ&
インクルーシブネス担当
EY Japan株式会社

2019年10月EY Japan株式会社入社。D&I推進担当者として20年以上のキャリアがあり、女性、障がい者、LGBT+、ワークライフ、世代、マルチカルチャーなど、さまざまなダイバーシティのイニシアチブをリードした幅広い経験と実績を持つ。2020年4月から実家のある筑波山(茨城県)にて在宅勤務を実践中。

自分らしく働こう

プロフェッショナルファームであるEYはメンバーの多様性とそれを生かす企業風土こそが競争力の源泉と考えています。ダイバーシティとインクルーシブネス(以下、D&I)を重視し、経営戦略の中核に据え、さまざまな取り組みを行っています。また、メンバー一人ひとりが自分らしく働けているか、インクルーシブな組織風土であるかどうか、年に数回行われるメンバー意識調査ではかり、課題の存在を経営層が認識し、経営課題として解決に取り組んでいます。EYがD&Iに真剣に取り組む理由の一つは、多様な視点とそれを生かす組織はイノベーションを育む環境であり、イノベティブな組織であることは、お客様の健全な経営をご支援する企業としてあるべき姿だという信念があるからです。

EY Japanにおいてもそれは同様で、D&Iを推進する専任部署を設けてさまざまな取り組みを行っています。メンバーが自発的に組織するコミュニティ活動も「女性」「LGBT+」「マルチカルチャー」「障がい」などをテーマにさまざまな活

動が行われており、組織横断的なネットワークが形成されています。これらのコミュニティは経営に対しても提言を行っており、それが女性の活躍を支援する制度やLGBT+フレンドリーな職場づくりなど、EYをEYらしくすることに大きな役割を果たしているのです。

EYの企業バースは「Building a better working world (より良い社会の構築)」。そのバースにのっとり、EYのD&Iの推進は社内にとどまらず、女性起業家の支援や女性アスリートのセカンドキャリア構築支援など、さまざまな社会貢献活動にも生かされています。EYはさまざまな施策、取り組みを通じて、格差や差別を撤廃し、誰もがその個性を尊重され、チームに貢献し、自分らしいキャリアを築くことを応援しています。自分らしく、プロフェッショナルとして成長したい皆さんがEYに参加し、EYとそして世界に向けてイノベーションを起こす仲間になってくださることを期待しています。

外部機関からの認定・表彰

EY新日本のD&I推進活動は、優れた先進事例として、さまざまな外部機関から認定・評価されています。



2020年9月、EY新日本の片倉理事長が、英国INvolve社の「HERoes Woman Role Model Lists」の2020年版において、「100 Women Executives Lists」2020年版の世界第4位に選出されました。



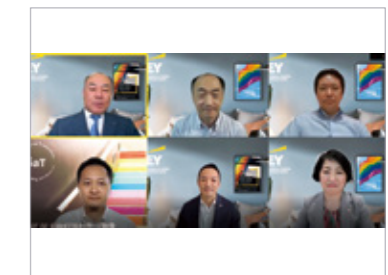
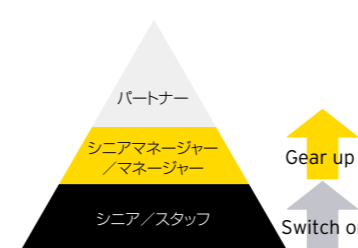
2021年1月、EY Japanの貴田守亮チェアパーソン兼CEOが、英国INvolve社の「OUTstanding LGBT+ Role Model Lists」において、「100 LGBT+ Executive Lists」2020年版の世界第2位に選出されました。



2020年10月、任意団体work with Prideが策定したLGBT+の取り組み評価指標「PRIDE指標」において、EY Japanは4年連続して最高評価「ゴールド」と認定されました。

一人ひとりの「違い」を活かす職場づくり

EY Japanは、一人ひとりのキャリアを考えるカウンセラー制度、思い切り学べるEY Badgesなどを通じ、一人ひとりの成長を全力でサポートしています。一方で、「インクルージョンおよび差別の禁止に関するグローバルポリシー」を整備し、能力を発揮しづらいマイノリティにも公平な成長機会を確保すべく、トップダウンとボトムアップの取り組みを実施しています。



女性リーダー育成プログラム
パートナーを目指す女性には、女性のみを対象とする選抜研修にて、ほかのサービスマンの女性たちと切磋琢磨し能力開発する機会を提供しています。またシニアパートナーをスポンサーにつけて育成機会の提供を強化しています。

パートナー等500人がアンコンシャスバイアス研修を受講
EY Japanのパートナー等役員層がアンコンシャスバイアス ワークショップに参加。女性に機会を与えることが重要との認識をあらたにしました。

EYのリーダーがLGBT+アライであることを宣言
2021年5月17日の国際反ホモフォビア・トランスフォビア・バイフォビアの日に、片倉理事長ほかEYのリーダーがLGBT+コミュニティへのサポートを表明しました。

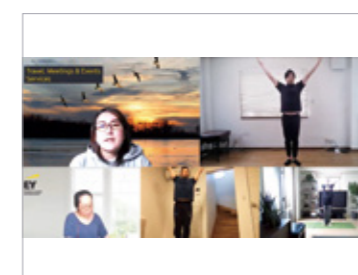
育児支援制度の概要

	出産前後	子育て期
休業等を取得する場合	産前休業 ^{※1} 産後休業 ^{※1} (配偶者)産後休業(有給) ^{※2}	育児休業(最長2歳まで) 復職研修
	休業中のiPad貸与(キャリア継続サポート)	
仕事と両立する場合	年次有給休暇(最大25日付与)	有給休暇(最大25日付与・有給)
	健康診査等時間の確保 ^{※1}	育児時間 ^{※1} (1歳まで)
	時差通勤の実施	子の看護休暇(対象者1人あたり5日、2人以上は最大10日まで、年5日まで有給、小学校就学前まで)
	休日勤務の制限 ^{※1}	フレキシブルワークプログラム(②と③の週4日勤務は組み合わせ可) ①時間外勤務・休日出勤の免除 ②短時間勤務(5時間/日以上7時間/日未満) ③所定勤務日数の低減(週3または4日)
	時間外勤務・深夜勤務の制限 ^{※1}	ベビーシッター利用補助(EYが6割負担、病児保育含む、小学校卒業まで)
	フレキシブルワークプログラム	EY託児(繁忙期) 看護休暇(年5日、有給) 在宅勤務
共通	妊活休暇(年20日、無給)	コアなしフレックスタイム(監査部門は選択型シフト勤務、中抜け勤務。組み合わせ可)
	看護休暇(年5日、有給)	育児コンシェルジュ(育児相談、休業前面談、復職后面談、保活支援など)
	在宅勤務	
	コアなしフレックスタイム(監査部門は選択型シフト勤務、中抜け勤務。組み合わせ可)	

短時間勤務と所定勤務日数の低減は組み合わせ利用が一部可能。上記のほか、育児・介護・配偶者の転勤などの事情により退職した人を再雇用するジョブ・リターン制度、介護休業などの制度があります。介護中のメンバーはフレキシブルワークプログラムの利用が可能です。



コミュニティメンバーが自ら考え行動するコミュニティ活動
女性のネットワークWindS、LGBT+とアライのネットワークUnity、外国籍のネットワークMERGE、聴覚障がい者が講師となる手話講習会など、ボトムアップの活動が盛んです。



フルリモートで生まれたオンラインラジオ体操イベント
コロナ感染予防のためいち早くフルリモートに切り替えたEY Japanでは、有志がバーチャルラジオ体操を始めました。5月にはEY Japanバラ&デファアスリートの諸大会の壮行会を兼ねたラジオ体操イベントを実施しました。



EYの絵本「みんなの島」発刊!
EYで提供するさまざまなサービスをモチーフとしたEYの絵本「みんなの島」。現場で働くメンバーのアイデアを結集。ご家族に大変好評です。

Recruitment Information

募集要項

対象者	2021年度公認会計士試験論文式試験 全科目合格者 および過年度合格者
給与	当法人の給与規程による 賞与：6月、12月 年2回支給 昇給：年1回 10月 手当：時間外手当、休日出勤手当、通勤手当（全額支給）、出張手当等
退職金制度	当法人の退職金規程による支給
勤務時間	9:30~17:30(うち休憩1時間)※選択型シフト勤務制度あり ※時間外勤務あり ※変形労働時間制適用の場合あり
休日・休暇等	土曜日、日曜日、国民の祝日（ただし法人が指定する祝日は除く）、年末年始、創立記念日、その他法人が認め た臨時休日、有給休暇（法定以上）、慶弔休暇、配偶者出産休暇、妊活休暇（無給）、看護・介護休暇、ボラン ティア休暇、試験休暇（実務補習所修了考査等）
育児・介護	育児・介護に伴う休業制度およびフレキシブルワークプログラム（勤務時間の短縮等）あり
社会保険	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
福利厚生 <small>*2020年10月1日改正後の内容 となっております</small>	【保険制度】 団体所得補償保険（補助金制度）、団体医療保険、海外旅行保険（海外出張の場合）、総合福祉団 体定期保険等
	選択制企業型確定拠出年金（CODA）
	【クラブ活動】 野球部、サッカー部、バスケットボール部、テニス部、スキー・スノーボード部、フットサル部、剣道 部、ゴルフ部、ランニング部、着付部、華道部、陶芸部、茶道部、カラオケ部、トレッキング部、フランス語部、サウナ &スパ部等
	【ベビーシッター利用料等補助制度】 個人契約ベビーシッター派遣会社、および、その他のサービス（延長保 育料等）に対する補助対象の利用料の60%補助
	【法人契約スポーツクラブ】 コナミスポーツ、ルネサンス
	【メンバー制の別荘】 日本オーナーズクラブ、星野リゾート・トマム等
実務補習	実務補習所への通学を優先しており、出張等は重ならないよう配慮し、泊り込み補習、 また論文提出の際も最大限の便宜を図っています。
その他	公認会計士協会登録費用、年会費等を法人で全額負担しています。 ▶ノート型パソコンを全員に貸与します。▶在宅勤務制度あり。



Outline

法人概要

EY新日本有限責任監査法人

海外駐在：37カ所 国内事務所：16カ所

(2021年6月30日現在)

▶国内事務所所在地

東京/札幌/仙台/福島/新潟/富山/金沢/松本/静岡/浜松/名古屋/
大阪/広島/高松/福岡/那覇 (2021年6月30日現在)

EY新日本有限責任監査法人

ERNST & YOUNG SHINNIHON LLC (英文名称)

本部・東京事務所：

〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号

東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー

Tel 03 3503 1100 (代表)

▶人員構成

	社員	職員	合計
公認会計士	513人	2,408人	2,921人
公認会計士試験 合格者など	-	1,255人	1,255人
その他	10人	1,500人	1,510人
合計	523人	5,163人	5,686人

(2021年6月30日現在)

合計 **5,686**人

▶被監査会社数

金商法・会社法監査	901社
金商法監査	53社
会社法監査	1,268社
学校法人監査	80社
労働組合監査	7社
その他法定監査	647社
その他任意監査	725社

合計 **3,681**社

(2021年6月30日現在)

▶資本金

1,088百万円 (2021年6月30日現在)

▶設立

2000年4月1日

▶EY新日本有限責任監査法人グループ (2021年6月30日現在)

新日本パブリック・アフェアーズ株式会社

EYソリューションズ株式会社

EYフォレンジック・アンド・インテグリティ合同会社

EY Japan株式会社

EY | Building a better working world

EYは、「Building a better working world (より良い社会の構築を目指して)」をパーパスとしています。クライアント、人々、そして社会のために長期的価値を創出し、資本市場における信頼の構築に貢献します。

150カ国以上に展開するEYのチームは、データとテクノロジーの実現により信頼を提供し、クライアントの成長、変革および事業を支援します。

アシュアランス、コンサルティング、法務、ストラテジー、税務およびトランザクションの全サービスを通して、世界が直面する複雑な問題に対し優れた課題提起 (better question) をすることで、新たな解決策を導きます。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくはshinnihon.or.jpをご覧ください。

© 2021 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp